

令和元年度及び第1期黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業 のまとめ

政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では令和元年度は35事業を実施し、A評価が24事業、B評価が11事業となりました。

農業の面では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図るとともに、意欲と能力のある若手就農者育成や、地域の中心経営体等に対して機械・施設の支援を行いました。黒石市六次産業化・地産地消推進事業では、六次産業化・地産地消推進協議会において策定した黒石市六次産業化推進戦略に基づき、地元の農産物を有効活用し、新たな商品開発に向けて検討しました。

商工業の面では、物流の効率化及び中小企業の生産性向上と雇用の場の確保に向け、より一層の活性化や新たな産業開発等の促進に取り組みました。就業者支援の面では、新しい分野にチャレンジする起業家を積極的に支援するとともに、就業者が健康で快適に働くことのできる環境づくりを支援し、雇用機会の確保と勤労者福祉の充実に努めました。黒石産品を製造販売する市内事業者等の販路拡大を支援する黒石産品販路拡大支援事業では新商品開発や見本市、物産展出店に対する補助を行い、地域経済の活性化に向けた取り組みの支援を行いました。

第1期の全体を通し、農業の面では平成30年に幻の寿司米「ムツニシキ」を復活デビューさせるなど農産物のブランド化やトップセールスによる販売強化を推進しました。さらに、農地中間管理事業では農業の担い手への農地の集積・集約化を推進し、農業の生産力を高め、競争力の強化を図ることにより、令和元年度に農地の累計集積面積の実績値は、265.8haと目標値を達成しました。

商工業の面では平成29年度に東北自動車道黒石インターチェンジを活用した物流の拠点・最適化を目指し、企業立地を推進し、雇用拡大へ繋げる「東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略」を策定しました。企業への留置活動や誘致活動に取り組み、最終的に5社が黒石市への進出を表明しています。市内の従業者数に関してもハローワークとの連携により、企業説明会の開催などを行ったところ、平成30年度には2,862人と、目標値を達成しました。

また、6次産業化・農商工連携を推進して地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取組を支援することで、「食」を始めとした新たな産業の基盤づくりに努めました。

政策分野2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野2では令和元年度は30事業を実施し、A評価が23事業、B評価が7事業となりました。

観光・物産の面では、歴史と伝統を活かした観光や物産にさらに磨きをかけるため、温泉郷などの観光地としての受け入れ体制の充実やインバウンドの強化、若者も集い楽しめる魅力あるまちづくりの推進に取り組みました。

また、古いまち並みを大切に、来訪者が癒される空間の創出に努めるため、観光・まち歩きの拠点となる「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りにおいて、国の指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。歴史的・文化的に貴重な文化財においては、適切な保存と活用を図り、黒石よされなどの伝統芸能を後世に継承するとともに、自主的で個性豊かな芸術文化活動を積極的に支援しました。景観形成事業では中町こみせ通りの景観の向上と保全を図るため、審議会や地域住民との意見交換を行い、中町周辺地区道路美装化実施設計等を行いました。さらに伝統的建造物群保存地区基盤強化事業では「中村家住宅」の修理工事に対する補助を行い、文化遺産の長期的保存に努めました。

第1期の全体を通し、観光の面では中野もみじ山「小嵐山」改良事業において紅葉床（こうようゆか）という名称で栈敷席を設置し、中野川を臨んで色づいた紅葉を眺めながら、食事を楽しむプランを実施したほか、LED街灯機や仮設トイレの設置による来場者への安全性・利便性の向上に努めました。これにより、来場者数は年々増加し、令和元年度には109,000人を記録し、紅葉狩りの名所として県内外での認知度の向上に繋がりました。また、「黒石よされ」への支援を継続し、悪天候にも対応できるイベントとなるよう、令和元年度はスポカルイン黒石を代替会場として準備し、一部イベントを室内で開催しました。さらに令和元年度からは国際交流員を配置し、インバウンド受入への対応を強化し、黒石駅前にある観光案内所の利用者数は増加傾向となっています。人形ねぶたの伝統継承及びまつりの振興を図ることを目的とした、人形ねぶた制作運行奨励費補助事業では、令和元年度に人形ねぶたの台数が増加したほか、若い世代からの補助金申請もあり、後継者育成にも繋がりました。しかし、津軽こけし館の利用者数が増加傾向にあるものの、各観光施設の利用者数は目標値には達しておりませんので、今後も引き続き来訪者の増加や利便性の向上に努めていきます。

移住促進の面では、地域おこし協力隊を五か年で計7名採用し、地域外の人材を積極的に誘致し、商工振興に係る支援や地域農業の推進などを行いました。今後も引き続き、任期終了後の定住へ繋がるように支援を行っていきます。

政策分野3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野3では令和元年度は35事業を実施し、A評価が29事業、B評価が3事業、C評価が3事業となりました。

子育て支援の面では、妊娠期からの切れ目のない支援を実施するため、妊娠・出産への不安や子育てに悩むお母さんとその家族が気軽に相談できる体制を整えました。健診や相談、訪問などの支援事業を活用し、育児や発育・発達等への不安に対し継続的な支援を行い、健康づくり及び相談体制の充実により、親子に寄り添い、安心して過ごせるように努めました。また、予防接種事業では、接種しやすい環境を整え、疾病の予防に努めました。

学校教育の面では、将来の本市を担う人材の育成に向け、「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視し、特色ある教育活動を推進しました。教育環境の充実のための学校適正配置事業では、令和2年度からの実施に向け、小学校9校を4校とする統合準備や、市民から要望が強かった小学校の完全給食実施に取り組みました。また、学校適正配置に関し合意形成を図るため、各校統合準備委員会に参画したほか、学校給食に関しては学区ごとに保護者説明会を、スクールバスに関しては学区ごとに保護者及び地区協議会等の関係者へ説明会を開催し、運用方法などを決めました。

社会教育の面では、健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、家庭や地域での学びを活かした人と人とのつながりと発信していける人づくりを大切にする社会教育の推進に努めました。

第1期の全体を通し、子育て支援の面では、子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が、喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康維持、要保護児童への対応など、多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。具体的には健診や相談・指導・支援及び訪問事業において、妊娠・出産への不安や子育てに悩むお母さんとその家族が様々な分野で相談できる体制を整えることを目的とし、妊娠期からの継続した支援の強化、個別ニーズの把握及び必要なサービスを円滑に利用できるよう、総合的にきめ細かい支援体制を構築しました。

社会教育の面では家庭教育に関する学習機会の充実を目的に家庭教育向上事業を行い、家庭での教育力の向上を図りました。また、未来を担うリーダー研修会や銀河宇宙探検隊事業を開催し、青少年の自主性を養い資質向上を図ったほか、想像力豊かな心の育成を図りました。

政策分野4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力」(=コミュニティ力)を活かした地域づくり

政策分野4では令和元年度は27事業を実施し、A評価が17事業、B評価が9事業、C評価が1事業となりました。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、健(検)康診断等の受診率の向上や、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口が減少する傾向にはありますが、積極的にスポーツを取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。具体的には、各種スポーツ教室事業において、柔道・剣道教室を計4回行い、延べ94人の参加がありました。

協働体制の確立については、学校教育・社会教育連携研修会事業において、地域学校協働本部の設置を目的に学校教員と地区協議会及び各種団体を対象に研修会を実施し、設置に向けての方向性を見つけることができました。

第1期の全体を通し、健康づくりの面では健康づくりの促進やがん検診受診率向上を図るため、健康づくり事業にポイントを付与し特典を与える、黒石市健康マイレージ事業を実施したことや、対象者への個別訪問、個別通知などにより、健(検)康診断の受診率は、およそ半数の健(検)康診断項目において、受診率が向上しました。今後も引き続き取り組んでいきます。

スポーツの面では、一市民一スポーツの普及・推進と市内各地区による交流を深めることを目的に、平成29年度から黒石市民を対象とした黒石市民運動会を開催し、各地区での連帯感を強化するとともに、健康づくりを図りました。さらに学校施設開放事業も平成30年度には目標値を超える37,714人の利用者があり、市民の健康増進、生涯スポーツの普及に努めました。

地域づくりの面では、自主防災組織の設立と支援に関する事業を行い、自主防災組織の設立数は令和元年度には11団体となりました。さらに、令和元年度からは防災士の養成事業も行い、3団体からの申請があり、新たに5名が防災士の資格を取得しました。地域のリーダーとなる人材育成や公民館職員の資質向上を目的とした地域力(黒石力)向上事業では平成29年度までは講座形式で主に開催し、平成30年度からワークショップ形式で行い、地域の課題について話し合い、地域の方向性を見出すことができました。

また、中心市街地再活用検討事業では中心市街地の今後のあり方について、庁内検討委員会や市民へのアンケートの結果等を踏まえ、平成30年度黒石市中心市街地活性化基本計画を策定しました。今後は市民サービス施設及び図書館整備等を実施していきます。